中学歴史プリント（書き取り）
弥生時代 No.5

名前

得点 ／20

1. 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
2. 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
3. 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？
4. 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
5. 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？
6. 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？
7. 縄文土器と比べて薄く作られ、煮炊きに適していたのはどのような温度で焼かれたから？
8. 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？
9. 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王に贈られたことを示す重要な遺物を何という？
10. 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
11. 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？
12. 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？
13. 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？
14. 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
15. 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？
16. 稲作が普及して富や権力に差が生まれた弥生時代、地域をまとめる存在として現れたまとまりを何という？
17. 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
18. 福岡県の志賀島で発見された金印を授けた、弥生時代の中国の王朝を何という？
19. 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？
20. 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「弥生時代」のプリント一覧がひらきます

答え合わせ・解説 No.5 弥生時代

言えた　／20

① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説 ▼ここで折る	答え	言えた
1	漢鏡は、中国の漢王朝で鋳造された銅鏡で、高い鋳造技術による精巧な文様が特徴です。	漢鏡	□
2	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鋳造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。	青銅器	□
3	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。	後漢書	□
4	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。	祭祀	□
5	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。	卑弥呼	□
6	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。	銅鐸	□
7	高温で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。	高温	□
8	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。	志賀島	□
9	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。	金印	□
10	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。	銅鐸	□
11	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。	銅鐸	□
12	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。	朝貢	□
13	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。	祭り	□
14	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。	鉄器	□
15	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。	光武帝	□
16	この争いに勝った有力者が周辺の集落を統合し、「クニ」と呼ばれる政治的なまとまりを作りました。	クニ	□
17	青銅器の中でも、銅剣・銅矛は九州北部を中心とする西日本に、銅鐸は近畿地方を中心に多く出土し、文化圏がはっきり分かれていました。	九州地方	□
18	志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、1世紀頃、後漢の光武帝が日本の使者に授けたものと考えられています。	後漢	□
19	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。	歴史書	□
20	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の光武帝に謁見し、朝貢しました。	光武帝	□

言えなかった用語ノート